

# フロリアード2012に見る最新花き情報

～フロリアード2012（フェンロー国際園芸博覧会）とオランダの花き生産～

【平成25年1月29日】

玉越文典（海部農林水産事務所農業改良普及課）

## 【はじめに】

今回、研修生（派遣期間：8月から10月の約2ヶ月間）として10年に一度、オランダで開催されるフロリアード2012（フェンロー国際園芸博覧会、以下「フロリアード」）への参加とオランダの花き生産者及び種苗会社の現状を調査する機会を得たので、その概要を報告する。

## 1 フロリアードについて

オランダは、日本が鎖国をしていた江戸時代においても長崎の出島で交易をするなど日本と歴史的に深い関係がある。国土は、九州とほぼ同じでありあまり大きくないが花き栽培技術に関して先進国である。

フロリアードは、オランダの首都アムステルダム南東部にあるフェンロー市において、昨年の4月から10月までの半年間にわたって開催された（詳細については、ホームページ<http://www.floriade2012.jp/outline/>を参照）。



写真1 フロリアード会場風景

私が研修生としてフロリアードで行った実務は主として以下の2点である。

### 日本国政府出展ブースの維持管理、入れ替え作業

日本国政府ブースの出展者は、愛知県などの地方公共団体、種苗会社、生け花インターナショナル、研修生等である。出展期間は、短い場合で3日間（研修生が企画、実施した展示）、最も長い場合は2週間（愛知県展示）である。各団体の展示の入れ替え作業や展示されている花きへの水やりや痛んだ葉の除去などの管理作業を行った。



写真2 日本ブースの愛知県展示  
テーマは三英傑

### 品種コンテストへの出品手続き

品種コンテストは、8月は2週間に1回、9月は毎週開催された。日本から空輸された切り花や鉢物が最高の状態で審査を受けられるように調整した。また、出品のため事務局へのエントリー手続きも行った。

## 2 オランダの花き生産調査結果について

オランダの花き生産状況の調査結果は表1のとおりである。当初のイメージどおり、生産者、種苗会社とも大規模で、生産性が非常に高かった。しかし、経営環境はより厳しくなっており、勝ち組と負け組に分かれていた。よって、今後も生産者数は減少していくものと思われる。

表1 オランダの花き生産状況

視察先	栽培品目	生産規模	経営の特徴
Schreurs社  (写真3)	バラ、ガーベラ (切り花)	施設8.5ha 年間出荷量 バラ400万～ 500万本、ガ ーベラ400万 ～450万本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎年20万粒の種子を蒔き4～5年で商品化。商品化できるのは毎年4～5品種。</li> <li>・ 雇用者数は60～70人で、季節変動あり。経営が厳しいためリストラ実行中。</li> <li>・ バラの生産面積を減らしガーベラの生産量が増えている。</li> </ul>
Pligt Professionals 社  (写真4)	エラチオールベ ゴニア、シクラ メン、プリンセ チア等	施設9ha 年間出荷量 1,000万鉢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉢サイズは12cm及び13cm。</li> <li>・ 全体の8割を輸出しており、輸出先はEU、ロシア、クロアチア、ハンガリー等。</li> <li>・ 定植から出荷まで、人による作業はなく、出荷時に枯れ葉などを取るだけである。他の栽培管理の薬散、灌水等は機械化しているが、タイミングなどは人が確認することが重要。</li> </ul>
Rick van Zeijl 社  (写真5)	輪ギク アナスタシア 専作	施設4ha 年間出荷量 約1,000万本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単位面積当たりの生産性が高い(250本/m<sup>2</sup>・年、4.7作/年)。</li> <li>・ 雇用者数は、年間平均で15～16人。</li> <li>・ 販売代金回収の面から市場を通しており、99.5%が市場出荷(セリ)。</li> <li>・ 定植機及び収穫機を活用して労力の削減を図っている。</li> <li>・ ロシア、ウクライナ、ラトビア等をターゲットとした輸出用ブランドを立ち上げる予定。</li> </ul>
H I P社  (写真6)	ハイドランジア 切り花専作 (14品種を栽培)	施設2.3ha 年間出荷量 60万本。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 花きの輸出業者であったが、昨年よりバラ農家のほ場を買取り、生産を開始。</li> <li>・ 栽培については、ハイドランジアを上手に作る農家の農場長をスカウトした。</li> <li>・ 雇用者数は3～4人。</li> <li>・ 経営方針としては、良い品種(=色が良く、日持ちする品種)の生産、生産経費の削減、農場名のPR、バイヤーとのコミュニケーションとしており、最も大事なことは。</li> </ul>



写真3 育種に使用するガーベラ



写真4 ベンチの上をベンチが動く



写真5 アナスタシア生産状況



写真6 斬新なポスター

### 3 研修を終えて

花き先進国といわれるオランダの生産者の戦略を直接把握できたことが大きな成果であった。攻める農家は、ロシアやウクライナを始めとした東ヨーロッパ諸国への輸出を増やす方針であった。守る農家は、パテントのない20年以上前の品種を選択してコスト削減に努めていた。一方で、オランダの花き業界が直面している厳しさを思い知らされた。例えば、切りバラの生産面積は、最近5年間で3分の1に激減(1,000ha 350ha)していた。主な要因は、ケニア等からの輸出の急増、エネルギーコスト上昇(天然ガス価格が3年間で2倍以上)及び過剰投資である。

また、バラに限らず、新品種導入時の銀行融資制限措置をとっていることには驚かされた。農業系の融資に強い銀行では、収量や売れ行きが明確でない新品種を導入する際には融資をしないことになっているそうである。

最後に、今回の研修に参加して最も良かったことは、日本の花業界を担う方々との人脈ができたことである。オランダの地で一緒に仕事をして寝食を共にする中で、花き産業について本音で話し合える仲間を得ることができたことは私の宝である。今後も定期的に集まって、日本の花き産業はどうあるべきかを議論していきたい。